

(仮称) 芸濃こども園及び周辺教育児童施設の整備の検討について

## 1 経緯と課題

公立の幼保連携型認定こども園（以下「こども園」といいます。）の整備については、平成28年2月9日に開催された津市議会全員協議会において、平成27年3月に策定した津市子ども・子育て支援事業計画を踏まえ、平成31年度までに市内5か所に整備する方針をお示しした以後、平成28年5月12日及び平成29年2月3日に開催された同協議会における協議を経て、津市のこども園設置に向けた概要を取りまとめました。

その概要を踏まえ、平成30年4月には津みどりの森こども園を始め、香良洲浜っ子幼児園、白山こども園、平成31年4月には(仮称)一志こども園、そして平成32年4月には(仮称)芸濃こども園の開園に向けて、それぞれのこども園について具体的な進捗を図ってきました。

**津市のこども園整備計画**

施設名称	整備時期	開園時期	利用定員	関連施設
津みどりの森こども園	平成29年度	平成30年4月	225人	津市立新町幼稚園、津市立神戸幼稚園、津市立修成幼稚園、津市新町保育園
香良洲浜っ子幼児園	平成29年度	平成30年4月	192人	津市立香良洲幼稚園、津市香良洲保育園
白山こども園	平成29年度	平成30年4月	300人	津市立白山幼稚園、津市白山保育園
(仮称)一志こども園	平成30年度	平成31年4月	245人	津市立高岡幼稚園、津市高野保育園
(仮称)芸濃こども園	平成31年度	平成32年4月	240人	津市立棕本幼稚園、津市立安西・雲林院幼稚園、津市芸濃保育園

とりわけ芸濃地域におけるこども園については、津市立棕本幼稚園と津市立安西・雲林院幼稚園、津市芸濃保育園を一つにして、平成31年度末までに施設整備を行い、平成32年4月に開園する計画の下、当該施設の整備に向けては、地域住民、保護者、保育所・幼稚園の関係団体等に説明を行いながら意見・要望を集約して、その整備方法などについて検討・協議を行ってきました。

一方、この検討過程において、当該地域における教育児童施設に関わる別途課題が、地域懇談会を始めとした地域の方々の御意見等からも明らかとな

ってきたため、当該こども園の整備については、これら複合的な課題の解決を含めて、当該地域の教育児童施設の整備について総合的に検討を進める必要が生じてきました。

## 2 課題の検討状況

現在、（仮称）芸濃こども園の整備方法、津市立芸濃小学校の児童数の増加による普通教室の不足、同小学校用スクールバスの駐車場所・乗降場所の確保、椋本地区放課後児童クラブ芸濃KIDSの利用児童数の増加による施設面積の狭小化への対応の検討を進めており、これまでの検討状況は次のとおりです。

## 3 （仮称）芸濃こども園の整備

### (1) 施設整備場所

（仮称）芸濃こども園は、芸濃地域の小学校就学前子どもの教育及び保育の提供体制のさらなる拡充に寄与する施設であることから、現在の津市立椋本幼稚園と津市芸濃保育園に旧芸濃町福祉センターの跡地を加えた約8,500㎡の土地に整備することとします。（資料1－参考資料②を参照）

この場所は、津市立芸濃小学校、津市立芸濃中学校、津市芸濃総合文化センターが集積し、周辺からのアクセスも容易な立地環境であり、また、これら教育・文化・スポーツ施設との接続や連携を円滑に進めることができます。

### (2) 定員規模

津市立椋本幼稚園、津市立安西・雲林院幼稚園及び津市芸濃保育園の利用の現状等を踏まえ、（仮称）芸濃こども園では0歳児から2歳児の保育認定（3号認定）に係る利用定員を60人に拡大し、3歳児から5歳児の教育認定（1号認定）に係る利用定員は90人に縮小するなど、保護者のニーズの実態に即した定員規模とします。

**（仮称）芸濃こども園**

（人）

	利用定員（案）			計
	3号認定	2号認定	1号認定	
0歳児	12	－	－	12
1歳児	20	－	－	20
2歳児	28	－	－	28
3歳児	－	30	30	60
4歳児	－	30	30	60
5歳児	－	30	30	60
計	60	90	90	240

〔現行〕

**利用定員**

(人)

	芸濃保育園		棕本幼稚園	安西・雲林院幼稚園	計		
	保育認定		教育認定				
	3号認定	2号認定	1号認定				
0歳児	12				12		
1歳児	39				100	50	39
2歳児							
3歳児	51	100	50	280			
4歳児							
5歳児							
計	51	79	100	50	280		

\*平成29年4月1日現在

**利用実績**

(人)

	芸濃保育園		棕本幼稚園	安西・雲林院幼稚園	計		
	保育認定		教育認定				
	3号認定	2号認定	1号認定				
0歳児	6				6		
1歳児	20				46	0	24
2歳児	24						
3歳児	50	27	19	0	46		
4歳児		27	17	10	54		
5歳児		30	33	7	70		
計	50	84	69	17	220		

\*保育園：平成29年4月1日現在 幼稚園：平成29年5月1日現在

(3) 施設概要

新たに整備する施設の概要は、国が示す「幼保連携型認定こども園の学級の編成、職員、設備及び運営に関する基準」にのっとり、園舎に備えるべき設備として、職員室、乳児室又はほふく室、保育室、遊戯室、保健室、調理室、便所、飲料水用設備、手洗用設備及び足洗用設備などを設置します。

また、円滑な園運営を行うため相談室や会議室なども併せて設置することとします。

(4) 建築・整備方法等

次のとおり津市立棕本幼稚園の施設を活用した増築・改修案（プランA及びB）と新築案（プランC及びD）に係る概算事業費、工事期間中の保育場所のほか園舎、園庭及び駐車場用地、柱・梁等の躯体について比較を行い、建築及び整備方法の検討を行いました。概算事業費は、園舎の建築

工事、園庭及び駐車場の整備、解体工事のほか旧芸濃町福祉センター跡地に残置されている基礎杭の撤去工事、現行の管理用道路に埋設されている防火水槽の撤去・設置工事、消火栓の移設などの総経費を試算しました。

ア 増築・改修案と新築案における園舎等の整備概要（資料1－参考資料③を参照）

区分		園舎	園庭	駐車場
増築・改修案	プランA	津市立棕本幼稚園の現行園舎を新たなこども園の保育室、子育て支援室等に改修するとともに、旧芸濃町福祉センターの跡地に鉄骨造一部2階建ての施設を増築します。	津市立棕本幼稚園の現行園庭部分及び旧芸濃町福祉センターの跡地の南側の一部（増築部分の南側）を新たな園庭エリアとします。	津市芸濃保育園の現行園舎と同園の園庭部分を送迎用駐車場とします。 なお、同所へは棕本地区放課後児童クラブのための施設、津市立芸濃小学校スクールバス駐車場所・乗降場所を新たに整備します。
	プランB	津市立棕本幼稚園の現行園舎を新たなこども園の保育室、子育て支援室等に改修するとともに、津市芸濃保育園の園庭と旧芸濃町福祉センターの跡地に鉄骨造平屋建ての施設を増築します。		
新築案	プランC	津市芸濃保育園の園庭と旧芸濃町福祉センターの跡地に鉄骨造平屋建ての施設を新たに整備します。	津市立棕本幼稚園の現行園舎と同園の園庭部分及び旧芸濃町福祉センターの跡地の南側の一部を新たな園庭エリアとします。	
	プランD	旧芸濃町福祉センターの跡地に鉄骨造総2階建ての施設を新たに整備します。		

イ 整備プラン別の検討結果

増築・改修案と新築案の検討結果の比較については次のとおりです。  
なお、概算事業費は各プランを比較検討するため、類似施設の工事単

価の例を参考に試算したものであり、今後計画を進めていく中で変動します。

		増築・改修案		新築案	
		プランA	プランB	プランC	プランD
概算事業費	一般財源	約 8.7 億円	約 8.5 億円	約 9.0 億円	約 8.9 億円
		約 1.6 億円 (約 1.7 億円)	約 1.6 億円 (約 1.7 億円)	約 1.8 億円 (約 1.9 億円)	約 1.8 億円 (約 1.8 億円)
	※ ( ) 内は送迎バス運行経費を含めた額				
工事期間中の保育場所	津市立椋本幼稚園の園児の一時移転が必要 ・一時移転に伴った送迎に対する保護者の負担軽減が必要（送迎バスの運行） ・保育環境の変化による子どもへの影響 ・認定こども園への移行に向けた合同保育の取組への影響				
園舎 (延床面積)	約 2,400 m <sup>2</sup>	約 2,300 m <sup>2</sup>	約 2,300 m <sup>2</sup>	約 2,400 m <sup>2</sup>	
園庭	園児一人当たり約 10.25 m <sup>2</sup> (約 2,500 m <sup>2</sup> )		園児一人当たり約 12.50 m <sup>2</sup> (約 3,000 m <sup>2</sup> )		
駐車場	約 65 台 (約 2,400 m <sup>2</sup> )	約 45 台 (約 1,700 m <sup>2</sup> )	約 30 台 (約 1,000 m <sup>2</sup> )	約 55 台 (約 2,300 m <sup>2</sup> )	
柱・ 躯体 (梁等)	改修部分は開園時築 30 年を経過するため今後躯体の経年劣化による改修又は建て替えの懸念				

(7) 概算事業費

増築・改修案については、想定する建物の延床面積に対し改修部分の割合は 20%、増築部分は 80%程度と見込まれるため、増築・改修案の概算事業費と新築案の概算事業費を比較した場合、増築・改修案プランA及びBと新築案プランC及びDの概算事業費ベースにおい

ては、約 8 億 5 千万円から約 9 億円の試算で、その差は約 5.5% の範囲内となります。

また、概算事業費には合併特例事業債の活用や国庫補助金を見込み、当初の一般財源ベースにおける財政負担は、プラン A 及び B は約 1 億 6 千万円、プラン C 及び D は約 1 億 8 千万円となりますが、増築・改修案のプラン A、B 及び新築案のプラン C については、後述のとおり津市立椋本幼稚園の園児の保育場所を移転することで送迎先が変更となる保護者の負担を軽減するため、本市が園児を送迎するためのバス（1 年間を想定：運行経費約 600 万円）を運行する必要がある、この経費を考慮すると、増築・改修案のプラン A 及び B と新築案のプラン D の差額は約 1,000 万円の試算で、概算事業費から見ると約 1% となります。

(イ) 工事期間中の保育場所

増築・改修案プラン A 及び B については、現行の津市立椋本幼稚園の園舎を改修するため、平成 31 年度に施工する当該工事期間中は同園舎を使用できないことから、同園児の保育場所を津市立安西・雲林院幼稚園へ一時移転（想定 1 年間）が必要となります。

また、新築案プラン C においても工事施工のための作業用地確保と園児の安全確保のため、増築・改修案プラン A 及び B と同様に保育場所の一時移転が必要となります。

これによって、翌平成 32 年 4 月からのこども園への移行に向けて、現在、津市立椋本幼稚園と津市芸濃保育園が行っている職員の連携、園児同士の交流や合同保育が、移行の直前年度で保育場所が離れることにより縮小などの影響を受けることとなります。

(ウ) 園舎

国が示す「幼保連携型認定こども園の学級の編成、職員、設備及び運営に関する基準」を満たした上で、必要な設備を備えた園舎の延床面積は、一部を 2 階建てとする増築・改修案プラン A 及び総 2 階建ての新築案プラン D はそれぞれ約 2,400 m<sup>2</sup>、平屋建ての増築・改修案プラン B 及び新築案プラン C は約 2,300 m<sup>2</sup>で、共用部分の差異はあるもののほぼ同水準の規模となります。

(エ) 園庭

園児一人当たりに換算した園庭の面積は、現行の津市立椋本幼稚園

では約13.00㎡、津市芸濃保育園では約10.15㎡ですが、増築・改修案プランA及びBはともに約10.25㎡で津市立椋本幼稚園の現行に対して約21%減となります。

これに対して、新築案プランC及びDはともに約12.50㎡で、現行約10.15㎡である津市芸濃保育園を上回り、津市立椋本幼稚園と同等の園庭環境が確保できます。

(オ) 駐車場

現在、旧芸濃町福祉センター跡地には、園児の送迎のピーク時において約50台の駐車利用がありますが、平屋建てによる新築案のプランCは約1,000㎡（約30台）で、他のプランと比較して約2分の1の減となり、同じく平屋建てによる増築・改修案プランBは約1,700㎡（約45台）で、増築・改修案プランAや新築案プランDと比較して約3分の1の減となります。これに対して、増築・改修案プランAは約2,400㎡（約65台）、総2階建ての新築案であるプランDは約2,300㎡（約55台）となり、ほぼ同程度の駐車場用地を確保することができます。

(カ) 躯体（柱・梁等）

増築・改修案プランA及びBにおいては、改修する津市立椋本幼稚園の園舎は、開園を迎える平成32年4月には築30年を経過することから、建具工事や内部工事などの改修工事は行うものの建物の主要構造部である柱や梁などの躯体部分の経年劣化から、近い将来において改修又は建て替えの懸念があります。

#### 4 津市立芸濃小学校の整備

(1) 教室施設

津市立芸濃小学校は、平成30年度に児童数が15人程度増加することにより普通学級が1クラス増加し、13クラスになることが見込まれます。普通教室は12教室であることから、暫定的に会議室を普通教室に転用し対応することとしていますが、この状況は、少なくとも平成35年度（現在の0歳児）までは続くことが見込まれるため、早急に普通教室が1教室必要になります。

また、特別支援教室は、平成29年度は3クラスですが、特別な配慮が必要となる児童は、児童に対する割合が年々増加しており、平成31年度には知的障害学級が1クラスから2クラスに増加し、全体で4クラスにな

ることが見込まれるため、特別支援教室が1教室必要になります。

これらのことから、2教室を確保するために、学校敷地内に別棟により鉄骨造平屋建ての施設を新たに整備することとします。（資料1－参考資料③を参照）

全体の概算事業費は約6,700万円で、当初の一般財源ベースにおける財政負担は、約1,000万円を予定するものです。

なお、概算事業費は、類似工事の工事単価の例を参考に試算したものであり、今後計画を進めていく中で変動します。

## (2) 津市立芸濃小学校スクールバス駐車場所・乗降場所

現在4台のスクールバスを運行しており、駐車場所は芸濃庁舎前の旧芸濃分署跡地にあります。スクールバスの運用や管理上、駐車場所は小学校の近くに確保することが望ましいことから、この機会に津市芸濃保育園の跡地に、スクールバスの駐車場所と乗降場所を整備することとします。（資料1－参考資料③を参照）

## 5 椋本地区放課後児童クラブ芸濃KIDSの整備

椋本地区放課後児童クラブ芸濃KIDSは、平成23年度から現在の施設でクラブを運営してきており、平成26年度に利用児童数が大幅に増加し、平成29年度には101人を数え、その後も増加が見込まれています。その結果、児童一人当たりの専用区画面積は0.83㎡と狭小化し、津市放課後児童健全育成事業の設備及び運営の基準に関する条例に規定するおおむねの専用区画面積1.65㎡を大きく下回ることとなり、本年度は津市立芸濃小学校の図書室を借用し、2か所で保育を行っています。

このため、津市公共施設等総合管理計画の下、放課後児童クラブに係る整備指針に基づき整備の手法を検討しましたが、同小学校に教室の余裕がなく、近隣に恒常的に使用できる公共施設がないことから、津市芸濃保育園の園舎の活用又は同園の敷地への新築を検討します。（資料1－参考資料③を参照）

## 6 今後の対応

今後は、さらに（仮称）芸濃こども園の整備について、地域の方々や保護者等に対して説明及び意見交換を行いながら検討を深めます。

また、椋本地区放課後児童クラブ芸濃KIDSの整備方法は、今後、検討を行っていきます。